

新潟脳神経研究会第 310 回例会

日 時： 平成 29 年 2 月 21 日（火）午後 5 時 30 分～

場 所： 脳研究所 1 階 検討会室

（司会：阿部 学）

1) GluD1 遺伝子欠損マウスのうつ様行動に関する薬理的解析 (20分)

中本 千尋 (新潟大・脳研・細胞神経生物学分野)

GluD1 はイオン透過型グルタミン酸受容体に属する膜タンパク質であるが、イオン透過能がなくその機能は不明な点が多い。本研究から、GluD1 遺伝子欠損マウスが社交性の低下やうつ様行動といった病態に関連した表現型を示すという興味深い知見が得られたので報告する。

（司会：池内 健）

2) 神経変性疾患における脳脊髄液バイオマーカー (20分)

春日 健作 (新潟大・脳研・遺伝子機能解析学分野)

アルツハイマー病において、脳脊髄液中の $A\beta_{1-42}$ の低下および総タウ蛋白の上昇は、脳内の老人斑および神経原線維変化とそれぞれ相関することから、診断に有用な情報を与える。最近われわれは、進行性核上性麻痺や大脳皮質基底核症候群といったアルツハイマー病以外の神経変性疾患の脳脊髄液を解析し、興味深い知見が得られたので紹介したい。

（司会：笹岡 俊邦）

3) 認知学習におけるドーパミン D2L 受容体の役割解析 (50分)

疋田 貴俊 (京都大・医・神経・細胞薬理学分野 特定准教授)

大脳基底核の直接路と間接路は、認知学習において異なる役割を担っている。間接路はドーパミン D2L 受容体によって制御される。我々は認知学習における D2L 受容体の役割を解析するために、D2L 受容体ノックアウトマウスの認知学習行動解析を行い、忌避学習や学習柔軟性に関与することを示した。

どうぞ奮ってご参加ください。

（担当：細胞神経生物学学分野）

新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之